

 2023 年度 進路だより さくら咲く	特大号 進路学活用 2023. 10. 12 (木) 札幌市立札幌北中学校 進路係 発行
--	---

学力テストお疲れ様でした。

10月も中旬。いよいよ自分の進路を本気で考えなければならない時期になりました。皆さんは先日第3回進路希望調査を記入したばかりですが、11月にもう一度希望調査を行います。それをもとに担任の先生と教育相談をして成績や志望校の確認を行い、12月の期末懇談で志望校を決定します。そして出願手続依頼書(生徒が中学校に出願手続きを依頼する文書)を提出します。今日は、この大きな流れを理解した上で、推薦入試や Web 出願について学習してください。第1回説明会の資料がクロームブックに保存されているはずです。それらも参考にしてください。

1. 推薦入試制度について

- (1) 中学校長推薦による推薦入試 …主に私立高校が実施(道内の公立高校はありません)

「推薦」とは「自分が良いと思う物事を他人にすすめること」です。これを入試に当てはめると、「中学校の3年間でこのような実績や優れた面がありました。貴校の求める生徒として学力・人物ともに十分に適しています。」と、中学校が責任をもって高校側に「すすめる」ということになります。そのために、中学校では推薦委員会という会議で推薦依頼書を提出した生徒1人1人に対して、推薦生徒にふさわしいかを慎重に審査します。審査を通過した生徒は最後に校長先生の面接試験を受けます。こうして中学校長推薦を得た生徒は、推薦入試に挑みます。高校で実施する推薦入試は、面接試験がメインで学科試験はなく、推薦書や個人調査書などを総合的に評価して行われます。札幌近郊の私立高校は、1/19～1/28 頃に推薦入試(1 月入試)を実施します。

- (2) 自己推薦入試 …多くの公立高校(ただし東、西、南、北、月寒、東豊、石狩南、平岡などを除く)や私立高校が実施

公立高校は、自己推薦による入学者選抜を 2/13 に実施します。出願先のスクールポリシーを理解し、自分を各高校が定めた「入学者の受入れに関する方針等」に合うと考えている者で、出願する動機及び理由が明確である者、と出願資格が示されています。文字通り、自分のことを自分で推薦する形なので、中学校長推薦のような厳格な審査を経ることがなく、その分多くの生徒が挑戦することができ、倍率も高くなる傾向があります。実技試験や英語の聞き取りや問答のテスト、作文、自己アピール文の提出、適性検査などを実施する高校もあります。

また、私立高校でも自己推薦による入試を実施しているところがあります。各高校が示す基準や資格はそれぞれ違いますが、他校との併願が可能な場合でも、合格後は必ず入学することが条件です。スポーツ推薦制度や部活動奨学生制度がある高校も多いです。どのコースにどのような受検のしかたをするのが最もよいのか、合格後のこともよく考えて、私立高校を慎重に選ぶようにしましょう。

- (3) 推薦入試のリスク (挑戦する価値はあるが、苦労も多い)

推薦入試は学科試験がないから一般入試より楽だ、というのは大きな誤解です。推薦入試には大きなリスクが伴います。まず推薦依頼書を書き、次に面接の練習をくり返し行って、最後に校長先生の面接審査があって、中学校の推薦生徒として認められるまでが大変です。自己推薦の場合は校長先生の面接などはありませんから、自己推薦書を書くだけで済みますが、説得力のある自己推薦書を自分で書くことができる総合的な能力が求められます。そして、高校の推薦入試を他中学校の生徒とともに受けて合格を勝ち取ることもかなり大変です。それで合格できれば早々に受験から解放されますが、もし不合格になったら、落ち込む暇もなく、その後すぐに願書を出し直して(＝再出願)、一般受験に向けて準備しなければなりません。ですから、面接の練習に注意と時間を費やししながら、学科試験の勉強にも手を抜けないのです。

また、推薦入試に出願した場合、出願変更はできません。合格したら必ず入学しなければなりません。公立高校を推薦受検する場合、私立高校を併願することはできますが、私立高校に合格したからといって入学することはできません。私立高校に入学できるのは推薦入試が不合格だった場合のみです。あの高校に行きたい！という意志が固く、最後まで頑張ることができる人でなければ、「こんなはずではなかったのに」と後悔することになります。

2. 進路日程

11 月	2 日(木)	2 学期末テスト(5 教科)	
	6 日(月)	推薦生徒申出受付(～10 日まで) …口頭で担任の先生へ。その後、保護者に確認。 推薦依頼書・自己推薦書作成開始(完成 17 日)	
	8 日(水)	学力テスト C (ABC の平均点で入試の点数を予想します)	
	10 日(金)	第 4 回進路希望調査配付(～17 日までに提出)	
	20 日(月)	相談週間(～27 日まで) …担任の先生と成績を確認して志望校をしぼる	
	30 日(木)	校内推薦委員会(中学校長推薦候補生徒の審査)	
12 月	1 日(金)	願書下書き開始 出願手続依頼書配付(期末懇談後 19 日までに提出)	
	6 日(水)	面接練習開始	
	7 日(木)	期末懇談会(～13 日まで) 志望校決定 推薦候補生徒の学校長面談開始(～13 日まで)	
	13 日(水)	中学校長推薦生徒決定	
	14 日(木)	出願手続依頼書提出完了	
	18 日(月)	私立高校 1 月入試 Web 出願(推薦入試・単願入試)	
	21 日(木)	願書提出締切・点検	
	22 日(金)	公立高校の願書配付 私立高校 2 月入試 Web 出願	
	25 日(月)	2 学期終業式	
冬 季 休 業		検定料 道立高校は北海道収入証紙を購入する。 市立高校は Web 出願で決済をする。	
1 月	15 日(月)	3 学期始業式 提出締切・点検	
	16 日(火)	学年末テスト(社理国数英)	
	19 日(金)	願書提出締切・点検	
	19～28 日	私立高校 1 月入試(推薦・単願)	
	26 日(金)	公立高校の出願状況(倍率)発表	
	29 日(月)	出願変更手続 受付開始 (全日制課程→全日制課程、定時制課程→定時制課程) 同一課程ならどの学科にも変更できます。しかし「A 高の倍率が高いから、倍率の低い B 高へ変える」という安易な変更はお勧めしません。倍率が高いと不安になるのは当然ですが、志望校決定の時の決断は大切にしてほしいです。ここで気持ちがぐらぐらしないように、しっかり考えていきたいものです。	
	30 日(火)	16:30 保護者向け校内説明会 手続完了は 2 月 2 日(金) 16 時まで ※出願変更の手続は保護者の方をお願いすることになります。	
2 月	13 日(火)	公立高校自己推薦入試(面接・作文・実技・適性検査など)	
		私立高校入試 【A 日程】 14 日(水)下見 15 日(木)と 16 日(金)入試 【B 日程】 19 日(月)下見 20 日(火)と 21 日(水)入試	
	20 日(火)	自己推薦入試の合格内定者発表 → 合格者は入学確約書を提出 → 不合格の場合、再出願手続開始(26 日 16 時迄)	
	28 日(水)	公立再出願後の倍率発表(道教委 HP) 合格通知(各校 2 月下旬までに郵送か Web で) ※私立高校の 2 次募集は各高校が随時発表します。	

3月	公立高校一般入試 全日制課程 4日(月)下見 5日(火)学科試験 6日(水)面接試験 ※定時制課程は5日に面接・作文などを実施		
	11日(月)	入学意志確認書を提出(合格した高校の優先順位を記入します)	
	13日(水)	追検査日(コロナ感染症などで受検を欠席した者が対象)	
	15日(金)	卒業証書授与式	
	18日(月)	公立高校合格発表(各高校のホームページ 10時) ・公立高校に合格した生徒は中学校に登校し、入学意志確認書に署名をします。 ・公立高校に不合格の生徒のうち、入学先が未定の生徒は中学校に登校し、今後の相談をします。 公立高校入学辞退者の連絡(中学校→公立高校)	
	19日(火)	追加合格者の連絡(9:30~16:30 公立高校←→中学校←→本人・家庭) 私立高校に入学辞退者を連絡する(中学校→私立高校) 北海道有朋高等学校(単位制課程)出願受付最終日	
	21日(木)	公立高校2次募集人員の発表 ↓	有朋(通信制課程)出願受付最終日
	22日(金)	2次募集出願受付(~25日16:30迄) 2次募集の入試はありません。 本検査の資料が当該校に集められて 選抜されます。	書類審査
	25日(月) 修了式	28日(木)までに合格発表	有朋高校入試(面接・作文のみ) ↓ 29日(金)10時 合格発表

3. 志望校選択にあたって

①公立1つ+私立2つ …それとも、公立1本で勝負する？

公立高校の入試は、定員の70%を学習点(評定ランク):学力点(入試)=1:1で、残りの15%を9:1や6:4など学習点重視で、残りの15%を4:6など学力点重視で合否判定することになっています。だから、「ランクは高いけど当日点がとれなかった」や「ランクは低いけど当日点をたくさんとった」という場合に合格できる可能性があります(比率は各高校が設定しています)。また、受験者がたくさん集まって倍率が高くなればなるほど、実力を発揮しても不合格になってしまう可能性が高くなります。例えば英藍高校は定員280のところ、自己推薦で47名が合格し、残り233に一般入試で299名が出願したので、 $299 \div 233 = 1.28$ 倍となります。66名が不合格になります。倍率はその年によって変動するものですが、平岸や国際情報などの人気校は低くなることはないようです。

私立高校の入試は、公立高校に比べて学習点(評定ランク)を重視する傾向が強いです。過去の入試結果から、合格するための最低ランクがわかります。「受験資格〇ランク以上」として公表している高校もあります。だから、学習点の条件をクリアしていれば、入試点をそれほど気にしなくても合格できると考えられます。また、「特進」など上位コースを受験して不合格になったときに、「総合」など下位コースで合格となる場合があります。

以上のことから、不確定要素の多い公立高校入試に比べて、ランク重視の私立高校は、いわゆる「すべり止め」になり得ます。私立高入試A日程・B日程のうち、1校は安心できる志望校を選んでおいて、もしものときに備えておくべきです。

②ダメだったら2次募集があるさ…あるかも。けど、ないかも。

公立高校は、入試の結果、入学者が定員に満たない場合はもう一度募集をかけて入試を行います。東苗穂近隣の3校(東陵、丘珠、東豊)は毎年のように2次募集がありますが、しかし、だからといって次もあるかどうかは誰にも分かりません。2次募集があったとしてもわずかに数名の枠だけで、そこにあちこちから出願者が殺到するかもしれません。さらに、2次募集は3/5の入試結果をそのまま合否判定に使うので、受検はありません。出願したら、結果を待つだけです。結果は3/28までに発表されます。それで合格できればよいですが…。というわけで、最初から「2次募集ありき」の考えは推奨できません。

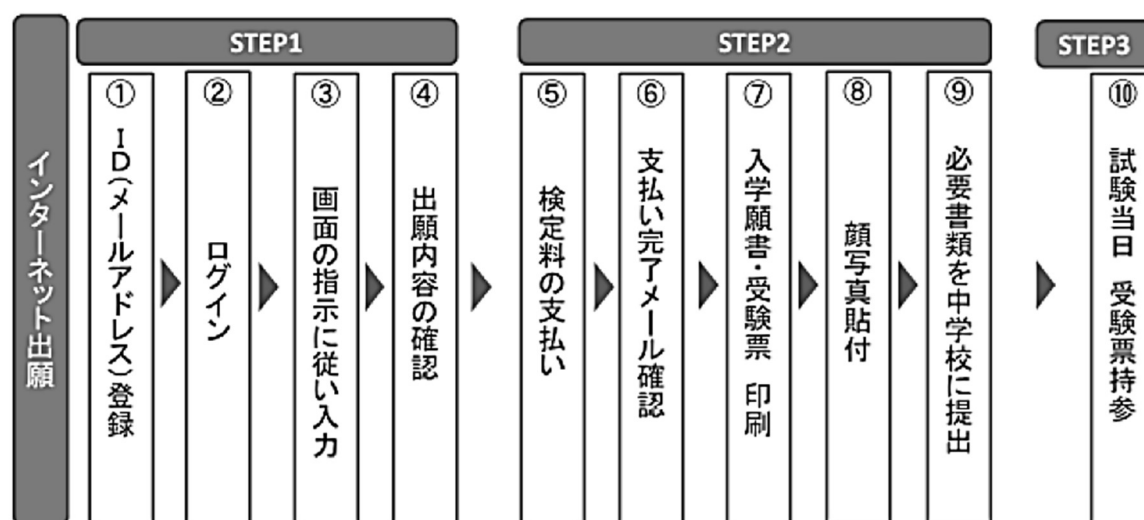
4. 私立高校入試 Web 出願の要領

Web 出願を導入している高校を受検する生徒は、自宅でパソコン・スマートフォン・タブレット等を使用して出願をします。 ユーザーIDを作成すれば、基本的にはどの端末からもログインが可能になります。なお、今までに私立高校が実施した学校説明会などに申し込んだことがある人は、すでにユーザーIDがある場合があります。

まずは、各高校 HP の入試情報関連ページから、募集要項や Web 出願にかかわるものをよく読んで確認し、間違いのないように出願手続きを進めましょう。

Web 出願のシステムには、「ミライコンパス」や「プラスシード」などの数種類があります。高校がどのシステムを採用しているかによって手続きの流れに少し違いがありますが、基本的には同じです。

<インターネット出願手続きの全体イメージ>



- (1) Web 受付期間(12 月上旬～)が始まったら、手続きを開始します。HP から出願のフォームに入ります。下書きを見ながら**自分で入力**を行いましょう。保護者の方にも見てもらいましょう。この時、必ず中学校に提出した出願手続依頼書の内容と同じ学科やコースを選択してください。
- (2) 画面の指示に従って入力をすすめていくと、「検定料の支払い」に到達します。ここは**保護者の方**にお願いしてください。※検定料を支払った後で未入力や間違いが見つかった場合、訂正することができません。支払う前に内容をよく確認するようにしてください。
- (3) 入学願書と受験票を印刷して、中学校に提出してください。担任の先生にチェックしてもらい、写真を貼って完成です。

(4) 推薦・単願(1月入試)受検者

提出日 12月21日(木)

(5) 一般入試(2月入試)受検者

提出日 1月19日(金)

不明な点は担任の先生、または Web 出願ページにある問い合わせ窓口やサポートセンター等に質問してください。

Web 環境がない御家庭は、早めに担任に相談してください。

※ 公立高校のうち、市立高校(新川、平岸など)は Web 出願です。詳細は未定です。